

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

学報

平成15年3月 事務局総務課発行 第196号

平成14年度学位記授与式



(関連記事3ページに掲載)

目 次

平成14年度学位記授与式 告辞、平成14年度学位記授与式挙行.....	3
入 試	
大学入試センター試験の実施.....	6
大学院工学研究科（第2次）入学試験の実施.....	6
学部入学試験の実施.....	6
平成15年度入試実施結果統計.....	6
研究助成	
助成金交付決定.....	7
平成14年度民間等との共同研究の受入状況.....	7
平成14年度奨学寄附金の受入状況.....	8
人 事	
人事異動、部局長等紹介、新任者紹介.....	9
住所変更等、海外渡航、各種委員会等.....	19
受 賞	
寄 稿	
報	
坂本弘志教授 日本機械学会北海道支部賞「研究技術賞」を受賞.....	24
定年退官を迎えるにあたって、北のまほらばにて.....	25
外国人留学生スキー研修.....	28
「教育優秀者」による授業の公開.....	28
第2回外国人留学生見学旅行.....	29
2003年留学生交流の夕べを開催.....	29
網走支庁管内4大学間で単位互換協定締結.....	30
ガスハイドレート研究及び関連トピックス国際ワークショップを開催.....	31
外国人研究者の受入れ.....	32
規 程	
北見工業大学学則の一部を改正する学則（北工大達第1号）.....	33
北見工業大学授業料等免除及び徴収猶予に関する規程の一部を改正する規程（北工大達第2号）.....	33
北見工業大学学則の一部を改正する学則（北工大達第3号）.....	35
北見工業大学総務委員会規程の一部を改正する規程（北工大達第4号）.....	42
北見工業大学安全管理・環境対策委員会規程の一部を改正する規程（北工大達第5号）.....	42
北見工業大学地域連携推進委員会規程（北工大達第6号）.....	43
北見工業大学情報システム運営委員会規程（北工大達第7号）.....	44
北見工業大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程（北工大達第8号）.....	45
北見工業大学学生交流規程の一部を改正する規程（北工大達第9号）.....	47
北見工業大学地域共同研究センター規程の一部を改正する規程（北工大達第10号）.....	47
北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員受入規程の一部を改正する規程（北工大達第11号）.....	48
北見工業大学情報処理センター規程の一部を改正する規程（北工大達第12号）.....	48
北見工業大学情報処理センター利用内規の一部を改正する内規（北工大達第13号）.....	49
北見工業大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー規程の一部を改正する規程（北工大達第14号）.....	49
北見工業大学大学院規程の一部を改正する規程（北工大達第15号）.....	50
北見工業大学教育課程履修規程の一部を改正する規程（北工大達第16号）.....	52
北見工業大学科学研究支援員取扱要項の一部を改正する要項（北工大達第17号）.....	53
北見工業大学受託研究員取扱要項の一部を改正する要項（北工大達第18号）.....	54
北見工業大学事務組織規程の一部を改正する規程（北工大達第19号）.....	55
北見工業大学事務組織細則の一部を改正する細則（北工大達第20号）.....	55
日 程	
誌	
平成15年度学事日程.....	56
1月・2月.....	57

住所変更等については4月10日まで掲載しました。

= 平成14年度学位記授与式 =

告 辞 「失敗を恐れずに挑戦を」

学長 常 本 秀 幸

卒業及び修了を迎えられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。

本年度は学部卒業生390人、大学院前期課程修了者121人、大学院博士後期課程修了者8人、合計519人を送り出すことになります。この中には中国、マレーシア、バングラディシュ、シリアなどからの留学生が11人含まれております。多くの学生は、卒業後は北見を離れ、全国に散っていくことになりますが、本学の同窓会組織は全国各地に設置されておりますので、ぜひ同窓会支部にも参加し、今後は本学の応援団となっていただきたいと思っております。また、留学生諸君は母国に帰ってから北見を忘れず、日本との交流の掛け橋になっていただきたいと思っております。

さて、卒業生の多くが20世紀から21世紀への記念すべき時期を本学で過ごし、21世紀に夢を抱きながら迎えたと思っておりますが、必ずしも明るい船出ではありません。ここで、この4年間を簡単に振り返ってみたいと思っております。

まず皆さんに身近なスポーツですが、2000年のシドニーオリンピックと日本中を熱中させた2002年のサッカーのワールドカップが挙げられます。オリンピックでは高橋尚子さんのマラソンでの優勝がハイライトでした。サッカーは、日本チームの活躍もあって日本中がブルーで染まり、若者のパワー・歓喜の顔を久し振りに見たような気がします。スポーツは一足先にグローバル化しており、野球の野茂がその先陣を切り、イチロー、松井と続きました。サッカーも中田、小野、中村など海外での活躍が増えてきており、このような若者の新たな挑戦に大きな拍手を送りたいと思っております。

経済は世界的に大変な時期を迎えております。アメリカの巨大企業であったエンロン社やワールドコムなどの倒産が続いて起りました。これらはいずれも経営者の倫理観の欠如が原因とな

っています。日本でも金融機関がバブル期の負の遺産の影響を受け、大手銀行の名前がほとんど変わってしまいました。また、食品産業、デパート、商社などがやはり倫理観の欠如に起因して倒産するなど、この数年間新聞等を賑わせており、まさに先の見えない深刻な状況が続いております。

工学が関連する産業界も、生産コストの安い中国などに生産の拠点を移した結果、中小企業に元気がなくなっております。しかし一方で、特殊技術を持ったものづくりの会社はこの不況下でも成長を続けており、今後の産業の方向性を示しているように思えます。資源のない日本の成長は、小型化、高性能化に代表されるものづくりが支えてきました。今後も、若い君たちの発想力で「科学技術創造立国日本」を蘇らせてくれることを期待しております。

国内政治は、この4年間に小淵、森、そして小泉と首相が3人も変わっております。この間、お金の絡んだスキャンダルで北海道から九州まで数人の国会議員が辞職するなど、立法の府が法を犯す状況が続く、政治不信が高まる原因を自ら作ってきました。先進国サミットのたびに首相が変わるのは日本とイタリアくらいです。成熟した時代に相応しい21世紀の政治形態を早くつくる必要があります。

国際政治を見ますと、21世紀早々の9.11テロに始まった無差別殺人の恐怖が挙げられます。

20世紀は戦争の世紀と言われ、第一次、第二次世界大戦を経験し、21世紀は平和の時代を迎えてほしいと願っていた矢先の出来事でした。民族の違い、思想の違い、宗教の違いが価値観の違いとなって争いになり、憎しみになり、これが歴史を動かしており、文明、文化の発展によっても平和な地球が達成できないのは、実に情けないことではないでしょうか。このような対立が起きる原因は価値観の相違だけではなく、

独裁者のエゴ、大国のエゴ、貧富の差など色々な要素が絡んでいます。今後考えられるエネルギー、食料の不安を考えると、紛争の起る可能性はますます増大しますが、先進国がリーダーとなって、これらの格差是正を早急に解決することが21世紀スタートの議題だと思っております。

暗い話しが続きましたが、教育・文化面ではなんとと言ってもノーベル賞受賞がトップに挙げられます。この3年間で白川、野依、小柴、田中さんと4人の受賞、しかも博士号を持っていない民間企業の技術者である田中さんの受賞は、昨年後半の明るいニュース No. 1 だったと思います。アメリカのトップクラスの大学では、ノーベル賞受賞者が何人いると言うことを宣伝に使っております。これまでのノーベル賞は欧米が中心だったと思いますが、日本の基礎研究の優秀さが証明されたと言えます。一方で、研究者・技術者の国際化が進んできたこともこのような結果を引き出す要素になっております。社会に出てからも、グローバル化時代に対応できる国際感覚と語学力の向上に努力を続けてもらいたいと思います。

私は10年間民間企業での経験がありますが、今でも記憶にあるのが入社式での社長の訓辞です。それは「技術者はまずは会社で1番、そして日本で1番、さらに世界で1番を目指してほしい」と言うことでした。高度成長期で、目標が明確な時代背景はありましたが、これからの技術者にも当てはまる言葉です。会社の中で、あのことは彼に聞けと言われる専門をつくることです。それが確立したらその分野で日本1を

目指してください。日本で1番は世界で1番と言ってもよいと思います。そのような中から第2の田中さんが生まれます。目標を持って努力を惜しまないことです。

数年前、私の実験室の卒業生でどうしてもホンダのF1チームに入りたいと言ってホンダを受けた学生がいました。大学院卒でないと入社も難しいと言われていたのが見事入社いたしました。F1チーム入りは無理で、それでも産業用のエンジン開発と言う、恵まれた配属先で、激励した記憶があります。出身がこの近くでしたので夏休みなどには近況報告にきてくれますが、産業用エンジンの次はディーゼルエンジンの開発をしており、3年前にカートチームに挑戦しますと言っていました。これも見事チーム入りを果たしております。昨年正月に会った時、今年で会社はカートレースから撤退するので、今度はF1チームに応募するとのことでした。今度は無理だろうと思っていましたが、今年の年賀状にF1チームでエンジンの開発をやっています、との報告でビックリすると共に感動したのを覚えています。夢を持つことそれに向かって努力を惜しまず挑戦すること、夢は叶うものです。

ベートーベンの第9に歡喜の歌と言う楽章がありますが、それは「苦悩を突き抜け歡喜に至る」ことを歌ったものです。苦勞したあとに成功があり、そこにこそ喜びがあります。若さの特権は失敗が認められることです。失敗を恐れず目標を持って果敢に挑戦する、そのことを皆さんに期待し、卒業式および修了式の告辞いたします。

平成14年度学位記授与式挙行

(総務課)

平成14年度学位記授与式が、3月25日(火)午前10時から本学講堂で行われました。

学部390人の卒業生、大学院博士前期課程121人及び大学院博士後期課程8人の修了生に対し、常本学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、北見市長(代理：助役)及び学生後援会会長からの祝辞の後、機械システム工学科の安倍忍さんが答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了者数等は、次のとおりです。

学部

学 科 名	卒業生数(人)
機械システム工学科	76
電気電子工学科	62
情報システム工学科	64
化学システム工学科	49
機能材料工学科	45
土木開発工学科	94
合 計	390

大学院博士前期課程

専 攻 名	修了者数(人)
機械システム工学専攻	20
電気電子工学専攻	23
情報システム工学専攻	12
化学システム工学専攻	16
機能材料工学専攻	20
土木開発工学専攻	30
合 計	121

大学院博士後期課程

専 攻 名	修了者数(人)
システム工学専攻	8
物質工学専攻	0
合 計	8

= 入試 =

(入学主幹)

大学入試センター試験の実施

平成15年度大学入試センター試験が、平成15年1月18日(土)、19日(日)の両日実施されました。

本学試験場には網走管内の受験生を主として741人の志願者がありました。

試験教科、受験状況等は以下のとおりです。

試験教科および本学での受験状況

日 時	教 科	時 間	受験者
1月18日	外国語	10:00～11:20	645人
	地理歴史	12:50～13:50	355人
	数学①	14:40～15:40	534人
	数学②	16:30～17:30	454人
1月19日	国 語	10:00～11:20	614人
	理 科①	12:50～13:50	465人
	理 科②	14:40～15:40	341人
	公 民	16:30～17:30	416人

大学院工学研究科(第2次)入学試験の実施

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程(第2次)入学試験が、2月12日(水)(学力検査)と13日(木)(面接試験)に実施されました。

また、平成15年度大学院工学研究科博士後期課程(第2次)入学試験が、2月12日(水)(面接試験のみ)に実施されました。

各専攻別、各課程別の合格者数等は右記のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		学部3年次		外国人留学生特別選抜	
	一般選抜		志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	5	4	0	0	0	0
電気電子工学専攻	3	2	1	1	1	1
情報システム工学専攻	3	2	0	0	1	1
化学システム工学専攻	6	6	0	0	0	0
機能材料工学専攻	8	4	0	0	0	0
土木開発工学専攻	7	5	0	0	0	0
合 計	32	23	1	1	2	2

博士後期課程

専攻名	志願者	合格者
システム工学専攻	13	13
物質工学専攻	5	5
合 計	18	18

入学試験の実施

本学の平成15年度学生募集に対して、1月27日から2月5日までの受付期間に前期日程526人、後期日程1410人の出願がありました。

前期日程は大学入試センター試験のみの選抜で3月6日(木)に合格者を発表し、後期日程は3月20日(木)に合格者を発表しました。

今年度の入試実施結果は、次のとおりです。

平成15年度入試実施結果統計**前期日程**

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	40	70	46
電気電子工学科	42	97	59
情報システム工学科	23	89	33
化学システム工学科	30	68	52
機能材料工学科	22	119	50
土木開発工学科	32	83	46
合 計	189	526	286

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	28	254	38
電気電子工学科	30	246	38
情報システム工学科	25	162	28
化学システム工学科	18 + 1	148	19
機能材料工学科	22 + 3	339	38
土木開発工学科	36	261	46
合 計	159 + 4	1 410	207

(化学システム工学科、機能材料工学科の「+」は推薦入試で募集人員に満たなかった分を加えたもの)

推薦入学

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械システム工学科	12	21	12
電気電子工学科	8	17	11
情報システム工学科	12	27	15
化学システム工学科	12	12	11
機能材料工学科	6	3	3
土木開発工学科	12	14	13
合 計	62	94	65

= 研究助成 =

(財)国土技術研究センター研究開発助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	周辺環境に配慮した環境調和型融雪剤の微生物生産プロセス開発	1,500 ^{千円}

平成14年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
機械システム工学科	助教授	鈴木聡一郎	介護・福祉支援システム構築に係る調査研究	北 見 市
機械システム工学科	教 授	羽二生博之	微細気泡生成引き延ばしノズルの設計指針に関する研究	(株)森機械製作所
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	寒冷地コンクリート構造物の品質向上のための施工情報評価モデルと欠陥防止対策の検討	(株)西村組
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	大気中二酸化炭素還元固定化システム用メタン接触分解プロセスの基盤技術開発	(株)鹿島建設
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	DME脱硝触媒に関する基礎研究	日 本 鋼 管 (株)

平成14年度累計 78件

平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
電気電子工学科	教 授	谷藤 忠敏	「工学研究」に対する研究助成	(財)医科学応用 研究財団	1,000,000 ^円
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	「寒冷地コンクリート構造物の 高品質施工の検討」に対する研究 助成	永田建設(株)	200,000
地域共同 研究センター	センター長	鈴木 輝之	「コーディネート活動支援」に 対する助成	全国中小企業 団体中央会	1,500,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「橋梁の診断評価に関する研 究」に対する研究助成	東邦コンサル タント(株)	300,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「各種がいしの着冰雪条件下で の絶縁特性に関する研究」に対 する研究助成	日本碍子(株)	500,000
電気電子工学科	教 授	山城 迪	「分散型電源の電力系統への導 入評価に関する研究」に対する 研究助成	北海道電力(株)	1,000,000
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	「コンクリートの品質向上のた めの品質と施工情報提供システ ムの研究」に対する研究助成	雄武レミ コン(株)	500,000
土木開発工学科	助教授	高橋 清	「工学研究」に対する研究助成	(株)ドーコン	700,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「工学研究」に対する研究助成	ヨシモトポール(株)	600,000
	学 長	常本 秀幸	「北見工業大学における学術振 興・国際交流等事業」に対する 助成	北見工業大学 学術振興・国 際交流等事業 を支援する会	1,521,000
化学システム工学科	助 手	岡崎 文保	「データベースの構築」に対す る研究助成	三 河 誠	200,000
土木開発工学科	助教授	伊藤 陽司	「工学研究」に対する研究助成	伊 藤 陽 司	526,000
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	小太郎漢方製薬(株)	400,000
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	「電磁波吸収体の研究」に対す る研究助成	日 東 電 工 (株)	200,000

平成14年度累計 94件

= 人事 =

人 事 異 動

(総 務 課)

大学発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15 . 1 . 31	技術職員 (土木開発工学科)	相 田 雅 輝	辞職を承認する
15 . 3 . 1		折 原 淳	文部科学技官(情報処理センター)に採用する

新 任 者 紹 介

 文部科学技官に ^{おりはら}折原 ^{あつし}淳 氏

昭51 . 7 . 10生

平11 . 3 東北大学工学部情報工学科卒業

13 . 3 " 大学院情報科学研究科退学

14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格(電気・電子・情報)

15 . 3 北見工業大学工学部(技術部・情報処理センター)



人 事 異 動

文部科学省発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15 . 3 . 31	学生課長	山 崎 昭 男	平成15年3月31日限り定年退職
"	附属図書館事務長	金 崎 幸 彦	平成15年3月31日限り定年退職
15 . 4 . 1	文化庁文化財部伝統文化課総務係長	坂 下 昌 巳	会計課長に昇任させる
"	帯広畜産大学会計課長	水 口 建	学生課長に配置換する
"	北海道大学経理部主計課課長補佐	遠 藤 正 明	附属図書館事務長に昇任させる
"	会計課長	工 藤 悟	文部科学省大臣官房総務課専門官に配置換する
"	会計課総務係長	高 橋 秀 真	帯広畜産大学入学主幹に昇任させる

大学発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15 . 3 . 31	教授 (電気電子工学科)	林 義 男	平成15年3月31日限り定年退職
"	教授 (機能材料工学科)	佐 藤 充 典	平成15年3月31日限り定年退職
"	教務課課長補佐	落 井 清 治	平成15年3月31日限り定年退職
"	附属図書館運用係長	立 石 進	平成15年3月31日限り定年退職
"	助教授 (共通講座)	田 村 卓 哉	辞職を承認する
"	教務職員 (化学システム工学科)	馬 場 雄 久	辞職を承認する
"	技術専門職員 (情報処理センター)	菅 原 洋 子	辞職を承認する
15 . 4 . 1	教授 (機能材料工学科)	青 木 清	機器分析センター長に併任する 併任の期間は平成17年3月31日までとする
"	教授 (未利用エネルギー研究センター)	庄 子 仁	未利用エネルギー研究センター長に併任する 併任の期間は平成17年3月31日までとする
"	教授 (留学生教育相談室)	山 岸 喬	留学生教育相談室長を命ずる 期間は平成17年3月31日までとする
"	教授 (機械システム工学科)	田 牧 純 一	技術部長を命ずる 期間は平成17年3月31日までとする
"	助教授 (化学システム工学科)	堀 内 淳 一	教授(化学システム工学科)に昇任させる
"	助教授 (機能材料工学科)	松 田 剛	教授(機能材料工学科)に昇任させる
"	講師 (電気電子工学科)	川 村 武	助教授(電気電子工学科)に昇任させる
"	助手 (化学システム工学科)	岡 崎 文 保	助教授(化学システム工学科)に昇任させる
"	助教授(地域共同研究センター)	宇 都 正 幸	助教授(機能材料工学科)に配置換えする
"		有 田 敏 彦	助教授(地域共同研究センター)に採用する
"	教務課教務係長	迫 田 育	教務課課長補佐に昇任させる

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15 . 4 . 1	教務課留学生係長	河 合 隆	教務課専門職員（大学院担当）に配置換する 専門員を命ずる
"	会計課司計係長	木 村 有 利	学生課専門員（学生支援担当）に昇任させる
"	北海道大学 総務部人事課給与掛主任	船 曳 康 徳	総務課人事係長に昇任させる
"	北海道大学医学部附属 病院総務課庶務掛主任	高 畑 範 昭	総務課職員係長に昇任させる
"	北海道大学工学研究科・ 工学部経理科経理掛主任	羽 澤 明 文	会計科総務係長に昇任させる
"	会計課司計係主任	久 田 貢	会計課司計係長に昇任させる
"	会計課管財係主任	松 沼 拓 夫	会計課出納係長に昇任させる
"	北海道大学経理部経理課 管理掛主任	岡 野 賢	会計課用度係長に昇任させる
"	会計課総務係主任	齋 藤 敏 浩	会計課専門職員（法人化調査担当）に昇任させる
"	会計課用度係主任	斉 藤 由 紀 子	会計課専門職員（物品管理担当）に昇任させる
"	教務課留学生係主任	斉 藤 靖 子	教務課教務係長に昇任させる
"	教務課専門職員	村 井 伸 夫	教務課留学生係長に配置換する
"	旭川工業高等専門学校会 計課施設係長	小 林 正 巳	施設課工営係長に転任させる
"	北海道大学施設部設備課 第一電気掛主任	菅 野 高 利	施設課設備第二係長に昇任させる
"	会計課用度係主任	山 本 涉	会計課司計係主任に配置換する
"		内 山 彰	会計課（管財係）に採用する
"		福 崎 隼 人	会計課（用度係）に採用する
"		工 藤 圭 輔	教務課（教務係）に採用する
"		小 川 靖 之	教務課（留学生係）に採用する

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15 . 4 . 1		二 村 肇	入学主幹付（入学試験係）に採用する
"	技術職員 （機械システム工学科）	杉 野 豪	技術専門職員に昇任させる
"	技術職員 （化学システム工学科）	橋 本 晴 美	技術専門職員に昇任させる
"	附属図書館学術情報係長	松 尾 博 朋	附属図書館運用係長兼務を命ずる
"	助教授 （機械システム工学科）	藤 木 裕 行	室蘭工業大学工学部助教授に転任させる
"	学生課専門員 （学生支援担当）	伊 藤 憲 司	小樽商科大学教務課専門職員（学部教務担当）に降任させる 専門員を命ずる
"	総務課人事係長	谷 口 貢	北海道大学総務部国際交流課専門職員に転任させる
"	総務課職員係長	阿 部 康 成	北海道大学総務部人事課職員掛長に転任させる
"	会計課用度係長	六 家 英 紀	北海道大学経理部第二契約課第四契約掛長に転任させる
"	会計課出納係長	三 浦 淳	北海道大学経理部情報処理課専門職員に転任させる
"	施設課設備第二係長	飯 野 晃	帯広畜産大学施設課設備係長に転任させる
"	施設課工営係長	芳 川 博	旭川医科大学業務部施設課整備係長に転任させる
"	入学主任幹入学試験係主任	引 中 健一郎	北海道教育大学経理部契約室契約第一係主任に転任させる
"	教務課教務係	氏 家 智 弘	北海道大学経理部情報処理課（企画掛）に転任させる
"	附属図書館総務係	氏 家 千 春	北海道大学附属図書館情報管理課（庶務掛）に転任させる

部 局 長 等 紹 介

機器分析センター長に ^{あおき}青木 ^{きよし}清 氏

機器分析センター長に青木 清 教授が平成15年4月1日
付けで再任になりました。

任期は平成17年3月31日までです。

未利用エネルギー研究センター長に ^{しょうじ}庄子 ^{ひとし}仁 氏

未利用エネルギー研究センター長に庄子 仁 教授が平成
15年4月1日付けで再任になりました。

任期は平成17年3月31日までです。

留学生教育相談室長に ^{やまぎし}山岸 ^{たかし}喬 氏

留学生教育相談室長に山岸 喬 教授が平成15年4月1日
付けで再任になりました。

任期は平成17年3月31日までです。

技術部長に ^{たまき}田牧 ^{じゅんいち}純一 氏

技術部長に田牧 純一 教授が平成15年4月1日付けで再任
になりました。

任期は平成17年3月31日までです。

新 任 者 紹 介

地域共同研究センター助教授に ありた としひこ 有田 敏彦 氏

昭30 . 5 . 3 生

- 53 . 3 北見工業大学工学部機械工学科卒業
- 53 . 4 福地農機株式会社製造部設計課
- 61 . 7 社団法人北見工業技術センター運営協会
- 平4 . 4 " 機械金属課主任技師
- 8 . 4 " 機械金属課長
- 13 . 4 " 事業開発課長
- 15 . 4 北見工業大学地域共同研究センター助教授



会計課長に しもさか まさみ 下坂 昌巳 氏

昭40 . 3 . 18 生

- 58 . 4 帯広畜産大学
- 平元 . 6 文化庁文化財保護部記念物課
- 5 . 1 " 伝統文化課
- 9 . 4 " " 文化財保護企画室調査係長
- 10 . 4 " 記念物課庶務係長
- 12 . 4 " 伝統文化課総務係長
- 13 . 1 " 文化財部伝統文化課総務係長
- 15 . 4 北見工業大会計課長



学生課長に ^{みずぐち}水口 ^{たつる}建 氏

昭21 . 3 . 11生

- 39 . 4 北見工業短期大学
- 41 . 4 北見工業大学会計課
- 43 . 4 " 施設課
- 46 . 4 " 会計課
- 51 . 4 " 学生課厚生係長
- 54 . 4 " 学生課学寮・会館係長
- 55 . 4 " 会計課管理係長
- 58 . 4 " 附属図書館総務係長
- 61 . 4 " 会計課用度係長
- 63 . 4 " 会計課出納係長
- 平2 . 2 " 学生課学生係長
- 4 . 4 " 会計課専門職員
- 6 . 3 " 会計課課長補佐
- 6 . 4 旭川工業高等専門学校会計課長
- 9 . 4 群馬大学医学部医事課長
- 11 . 4 北海道教育大学経理部経理課長
- 14 . 4 帯広畜産大学会計課長
- 15 . 4 北見工業大学学生課長



附属図書館事務長に ^{えんどう}遠藤 ^{まさあき}正明 氏

昭23 . 8 . 14生

- 42 . 5 北海道大学水産学部
- 52 . 7 " 経理部経理課
- 57 . 5 " 経理部主計課
- 60 . 4 " 歯学部総務課
- 63 . 4 " 経理部経理課
- 平4 . 4 国立日高少年自然の家庶務課会計係長
- 6 . 4 北海道大学大学院地球環境科学研究科会計掛長
- 7 . 10 " 経理部主計課専門職員
- 10 . 4 " 経理部主計課総務掛長
- 11 . 4 " " 専門員
- 14 . 4 " 経理部主計課課長補佐
- 15 . 4 北見工業大学附属図書館事務長



総務課人事係長に ^{ふなびき} 船曳 ^{やすのり} 康德 氏

- 昭40 . 4 . 16生
 63 . 5 苫小牧工業高等専門学校庶務課
 平6 . 4 国立日高少年自然の家事業課
 7 . 4 " 庶務課
 9 . 4 北海道大学農学部附属演習林
 11 . 4 " 庶務掛主任
 12 . 4 " 総務部人事課福祉掛主任
 14 . 4 " " 給与掛主任
 15 . 4 北見工業大学総務課人事係長



総務課職員係長に ^{たかはた} 高畑 ^{のりあき} 範昭 氏

- 昭41 . 12 . 17生
 60 . 4 北海道大学医学部附属病院医事課
 平3 . 4 " 庶務部人事課
 5 . 4 " 法学部
 8 . 4 " 医学部
 11 . 4 " 医学部附属病院医事課
 12 . 4 " 医学部附属病院医事課付主任
 13 . 10 " 医学部附属病院総務課庶務掛主任
 15 . 4 北見工業大学総務課職員係長



会計課総務係長に ^{はざわ} 羽澤 ^{あきふみ} 明文 氏

- 昭40 . 7 . 14生
 60 . 4 防衛庁
 62 . 4 北海道大学教育学部
 平3 . 4 " 工学部経理課
 7 . 4 " 大学院地球環境科学研究科
 9 . 4 " 農学部附属演習林
 10 . 4 " 農学部附属演習林苫小牧地方演習林事務掛主任
 12 . 4 " 工学研究科・工学部経理課経理掛主任
 15 . 4 北見工業大会計課総務係長



会計課用度係長に ^{おかの} **岡野** ^{けん} **賢** 氏

- 昭41 . 1 . 30生
 59 . 4 国立日高少年自然の家事業課
 61 . 10 " 庶務課
 63 . 5 北海道大学経理部経理課
 平3 . 7 " 医療技術短期大学部
 5 . 10 " 学生課
 7 . 4 " 学務部学生課
 9 . 4 " 大型計算機センター
 11 . 4 " 大型計算機センター会計掛主任
 12 . 4 " 経理部経理課第二用度掛主任
 13 . 4 " 経理部経理課管理掛主任
 15 . 4 北見工業大学会計課用度係長



施設課工営係長に ^{こばやし} **小林** ^{まさみ} **正巳** 氏

- 昭28 . 8 . 18生
 50 . 7 北見工業大学施設課
 平2 . 12 " 施設課工営係主任
 5 . 4 苫小牧工業高等専門学校会計課施設係長
 12 . 4 旭川工業高等専門学校会計課施設係長
 15 . 4 北見工業大学施設課工営係長



施設課設備第二係長に ^{かんの} **菅野** ^{たかとし} **高利** 氏

- 昭40 . 6 . 26生
 59 . 5 東京大学教養学部経理課
 62 . 7 " 施設部通信連絡課
 平3 . 4 " 施設部電気・通信設備課
 8 . 4 国立特殊教育総合研究所運営部会計課用度係
 11 . 4 東京大学施設部電気・通信設備課電気第三掛主任
 13 . 4 北海道大学施設部設備課第一電気掛主任
 15 . 4 北見工業大学施設課設備第二係長



会計課文部科学事務官に ^{うちやま}内山 ^{あきら}彰 氏

昭49 . 2 . 22生
 平9 . 3 北海道大学理学部卒業
 10 . 4 青森県五所川原地方出納事務所
 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
 15 . 4 北見工業大学会計課



会計課文部科学事務官に ^{ふくさき}福崎 ^{やまと}隼人 氏

昭51 . 9 . 19生
 平12 . 3 北海道大学理学部卒業
 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
 15 . 4 北見工業大学会計課



教務課文部科学事務官に ^{くどう}工藤 ^{けいすけ}圭輔 氏

昭52 . 9 . 21生
 平13 . 3 茨城大学人文学部卒業
 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
 15 . 4 北見工業大学教務課



教務課文部科学事務官に ^{おがわ}小川 ^{やすゆき}靖之 氏

昭51 . 10 . 21生
 平7 . 3 北海道札幌南高等学校卒業
 14 . 5 NTT北海道テレマート株式会社
 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
 15 . 4 北見工業大学教務課



入学主幹付文部科学事務官に ^{ふたむら}二村 ^{はじめ}肇 氏

昭49 . 8 . 2生
 平11 . 3 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
 15 . 4 北見工業大学入学主幹付



海 外 渡 航

外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	教 授	青 木 清	ナノと環境エネルギーに関する海外動向調査 (アメリカ合衆国)	14 .12 .1 ~ 14 .12 .15
土木開発工学科	助 教 授	高 橋 清	アメリカ土木・交通学会に参加及び発表 (アメリカ合衆国)	15 .1 .12 ~ 15 .1 .16

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
未利用エネルギー研究センター	教 授	庄 子 仁	ロシア科学アカデミーシベリア支所無機化学研究所にてメタンハイドレート研究のためのオホーツク海調査打合せ (ロシア連邦)	15 . 1 . 25 ~ 15 . 2 . 1
電気電子工学科	教 授	谷 本 洋	第50回国際固体回路会議 (ISSCC) に出席 (アメリカ合衆国)	15 . 2 . 9 ~ 15 . 2 . 15
共 通 講 座	教 授	照 井 日出喜	ドイツの文化状況と歴史的形成過程についての共同研究及び調査・研究打合せ (ドイツ連邦共和国)	15 . 3 . 1 ~ 15 . 3 . 26
土木開発工学科	助 教 授	川 村 彰	インド・スリランカ道路専門家調査団セミナーにおいて講演及び国連アジア太平洋委員会にて道路交通事情調査 (インド、スリランカ民主社会主義共和国、タイ王国)	15 . 3 . 2 ~ 15 . 3 . 15
地 域 共 同 研究センター	教 授	斎 藤 俊 彦	E Uの大学における産学連携実情調査 (オランダ王国、ベルギー王国)	15 . 3 . 3 ~ 15 . 3 . 9
地 域 共 同 研究センター	助 教 授	宇 都 正 幸	E Uの大学における産学連携実情調査 (オランダ王国、ベルギー王国)	15 . 3 . 3 ~ 15 . 3 . 9
土木開発工学科	助 教 授	高 橋 清	ロンドン大学にて交通安全政策に関する打合せ (イギリス連合王国)	15 . 3 . 4 ~ 15 . 3 . 9
土木開発工学科	教 授	鮎 田 耕 一	オーストラリア・モナッシュ大学との大学間学術・教育交流推進に関する打合せ (オーストラリア)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 19
機能材料工学科	教 授	青 木 清	オーストラリア・モナッシュ大学との大学間学術・教育交流推進に関する打合せ (オーストラリア)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 19
土木開発工学科	助 教 授	高 橋 清	オーストラリア・モナッシュ大学との大学間学術・教育交流推進に関する打合せ (オーストラリア)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 19
総 務 課	学 事 法 規 係 長	西 田 政 利	オーストラリア・モナッシュ大学との大学間学術・教育交流推進に関する打合せ (オーストラリア)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 19
機器分析センター	助 教 授	南 尚 嗣	バイカル湖のメタンハイドレート調査 (ロシア連邦)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 30
機能材料工学科	助 手	坂 上 寛 敏	バイカル湖のメタンハイドレート調査 (ロシア連邦)	15 . 3 . 16 ~ 15 . 3 . 30
共 通 講 座	教 授	下 村 五三夫	教材編集に関する資料収集 (フィンランド共和国、ポーランド共和国)	15 . 3 . 23 ~ 15 . 4 . 6
情報システム工学科	助 手	嘉 田 勝	ボイジー州立大学研究集会 (BEST2003) 出席及び発表、並びに公理的集合論に関する研究打合せ (アメリカ合衆国)	15 . 3 . 24 ~ 15 . 4 . 1

各 種 委 員 会 等

任 期	学 科 長 ・ 講 座 主 任	専 攻 主 任	総 務 委 員 会	大 学 院 専 攻 主 任 会 議	学 術 振 興 ・ 国 際 交 流 基 金 運 用 委 員 会
	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31
委 員 長 委 員	機械システム工学科 羽二生博之 電気電子工学科 田村 淳二 情報システム工学科 鈴木 正清 化学システム工学科 鈴木 勉 機能材料工学科 井上 貞信 土木開発工学科 前田 寛之 共 通 講 座 照井日出喜	機械システム工学専攻 富士 明良 電気電子工学専攻 細矢 良雄 情報システム工学専攻 鈴木 茂人 化学システム工学専攻 鈴木 勉 機能材料工学専攻 井上 貞信 土木開発工学専攻 榎本 浩之 各 専 攻 共 通 照井日出喜	学 長 副学長(総務・研究担当) 副学長(教務・学生担当) 附 属 図 書 館 長 地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 長 機 器 分 析 セ ン タ ー 長 未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 保 健 管 理 セ ン タ ー 所 長 情 報 処 理 セ ン タ ー 長 技 術 部 長 留 学 生 教 育 相 談 室 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 羽 二 生 博 之 電 気 電 子 工 学 科 田 村 淳 二 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 正 清 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 勉 機 能 材 料 工 学 科 井 上 貞 信 土 木 開 発 工 学 科 前 田 寛 之 共 通 講 座 照 井 日 出 喜 事 務 局 長	学 長 副学長(総務・研究担当) 副学長(教務・学生担当) 附 属 図 書 館 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 富 士 明 良 電 気 電 子 工 学 専 攻 細 矢 良 雄 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 鈴 木 茂 人 化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻 鈴 木 勉 機 能 材 料 工 学 専 攻 井 上 貞 信 土 木 開 発 工 学 専 攻 榎 本 浩 之 各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜 事 務 局 長	副学長(総務・研究担当) 副学長(教務・学生担当) 附 属 図 書 館 長 地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 長 機 器 分 析 セ ン タ ー 長 未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 保 健 管 理 セ ン タ ー 所 長 情 報 処 理 セ ン タ ー 長 技 術 部 長 留 学 生 教 育 相 談 室 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 羽 二 生 博 之 電 気 電 子 工 学 科 田 村 淳 二 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 正 清 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 勉 機 能 材 料 工 学 科 井 上 貞 信 土 木 開 発 工 学 科 前 田 寛 之 共 通 講 座 照 井 日 出 喜 事 務 局 長

任 期	人 事 委 員 会	安 全 管 理 ・ 環 境 対 策 委 員 会	教 務 委 員 会	学 生 委 員 会	入 学 者 選 抜 委 員 会
	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31
委 員 長 委 員	学 長 副学長(総務・研究担当) 副学長(教務・学生担当) 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 羽 二 生 博 之 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 佐 々 木 正 史 電 気 電 子 工 学 科 谷 本 洋 電 気 電 子 工 学 科 吉 田 公 策 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 神 谷 祐 二 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 河 野 正 晴 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 堀 内 淳 一 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 福 井 洋 之 機 能 材 料 工 学 科 佐 々 木 克 孝 機 能 材 料 工 学 科 増 田 弦 土 木 開 発 工 学 科 前 田 寛 之 土 木 開 発 工 学 科 榎 本 浩 之 共 通 講 座 下 村 五 三 夫 共 通 講 座 金 倉 忠 之	副学長(総務・研究担当) 附 属 図 書 館 長 地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 長 機 器 分 析 セ ン タ ー 長 未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 保 健 管 理 セ ン タ ー 所 長 情 報 処 理 セ ン タ ー 長 学 務 部 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 坂 本 弘 志 電 気 電 子 工 学 科 植 田 孝 夫 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 柴 田 孝 次 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 伊 藤 好 二 機 能 材 料 工 学 科 佐 々 木 克 孝 土 木 開 発 工 学 科 内 島 邦 秀 共 通 講 座 柳 等 事 務 局 長 総 務 課 長 会 計 課 長 教 務 課 長 学 生 課 長 施 設 課 長 入 学 主 幹 附 属 図 書 館 事 務 長	副学長(教務・学生担当) 附 属 図 書 館 長 情 報 処 理 セ ン タ ー 長 留 学 生 教 育 相 談 室 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 小 林 道 明 電 気 電 子 工 学 科 吉 田 公 策 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 亀 丸 俊 一 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 吉 田 孝 機 能 材 料 工 学 科 青 木 清 土 木 開 発 工 学 科 海 老 江 邦 雄 共 通 講 座 大 野 晃	副学長(教務・学生担当) 留 学 生 教 育 相 談 室 長 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 松 村 昌 典 電 気 電 子 工 学 科 平 山 浩 一 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 中 垣 淳 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 福 井 洋 之 機 能 材 料 工 学 科 渡 邊 眞 次 土 木 開 発 工 学 科 佐 渡 公 明 共 通 講 座 小 川 芳 樹	学 長 副学長(総務・研究担当) 副学長(教務・学生担当) 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 坂 本 弘 志 電 気 電 子 工 学 科 菅 原 宣 義 情 報 シ ス テ ム 工 学 科 柴 田 孝 次 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 堀 内 淳 一 機 能 材 料 工 学 科 松 田 剛 土 木 開 発 工 学 科 森 訓 保 共 通 講 座 芳 賀 和 敏

	附属図書館委員会	地域連携推進委員会	情報システム運営委員会	地域共同研究センター兼任教官	機器分析センター兼任教官
任 期	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 17 .3 .31	15 .4 .1 ~ 17 .3 .31	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 17 .3 .31
委員長	附属図書館長	副学長(総務・研究担当)	副学長(総務・研究担当)		
委員	機械システム工学科 森谷 優 電気電子工学科 柏 達也 情報システム工学科 吉田 秀樹 化学システム工学科 三浦 宏一 機能材料工学科 伊藤 英信 土木開発工学科 内島 邦秀 共通講座 谷口 孝男	副学長(教務・学生担当) 地域共同研究センター長 サライト・ベンチャー・ビジネスラボラトリー長 機械システム工学科 坂本 弘志 電気電子工学科 村田 年昭 情報システム工学科 吉田 秀樹 化学システム工学科 小林 正義 機能材料工学科 宇都 正幸 土木開発工学科 伊藤 陽司 共通講座 金倉 忠之 事務局 局長	附属図書館長 情報処理センター長 機械システム工学科 松村 昌典 電気電子工学科 柏 達也 情報システム工学科 後藤文太郎 化学システム工学科 岡崎 文保 機能材料工学科 射水 雄三 土木開発工学科 後藤 隆司 共通講座 平野 温美 事務局 局長	機械システム工学科 坂本 弘志 電気電子工学科 山城 迪 情報システム工学科 藤原 祥隆 化学システム工学科 小林 正義 機能材料工学科 増田 弦 機能材料工学科 宇都 正幸 15 .4 .1 ~ 16 .3 .31 土木開発工学科 高橋 修平 共通講座 金倉 忠之	機械システム工学科 富士 明良 電気電子工学科 野矢 厚 情報システム工学科 原田 康浩 化学システム工学科 三浦 宏一 機能材料工学科 増田 弦 土木開発工学科 前田 寛之 共通講座 谷口 孝男

	未利用エネルギー研究センター兼任教官	情報処理センター兼任教官	サライト・ベンチャー・ビジネスラボラトリー兼任教官
任 期	15 .4 .1 ~ 17 .3 .31	14 .4 .1 ~ 16 .3 .31	14 .8 .30 ~ 16 .3 .31
委員長			
委員	機械システム工学科 佐々木正史 化学システム工学科 多田 旭男 化学システム工学科 鈴木 勉 機能材料工学科 高橋 信夫 土木開発工学科 前田 寛之 機器分析センター 南 尚嗣	機械システム工学科 松村 昌典 機械システム工学科 菅原 幸夫 電気電子工学科 平山 浩一 電気電子工学科 植田 孝夫 情報システム工学科 後藤文太郎 情報システム工学科 中垣 淳 化学システム工学科 岡崎 文保 機能材料工学科 宇都 正幸 土木開発工学科 早川 博 土木開発工学科 三上 修一	機械システム工学科 羽二生博之 情報システム工学科 亀丸 俊一 土木開発工学科 高橋 清 地域共同研究センター 斉藤 俊彦 留学生教育相談室 山岸 喬

	クラス担任 (1 年)	クラス担任 (2 年)	クラス担任 (3 年)	クラス担任 (4 年)	就 職 担 当 教 官
任 期	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31	15 .4 .1 ~ 16 .3 .31
	機械システム工学科 佐々木正史	機械システム工学科 尾崎 義治	機械システム工学科 大橋 鉄也	機械システム工学科 富士 明良	機械システム工学科
	機械システム工学科 菅原 幸夫	機械システム工学科 鈴木聡一郎	機械システム工学科 閻 紀旺	機械システム工学科 羽二生博之	学 部 富士 明良
	電気電子工学科 植田 孝夫	電気電子工学科 菅原 宣義	電気電子工学科 川村 武	電気電子工学科 田村 淳二	学 部 山田 貴延
	電気電子工学科 野矢 厚	電気電子工学科 熊耳 浩	電気電子工学科 武山 眞弓	電気電子工学科 谷本 洋	大 学 院 富士 明良
	情報システム工学科 山田 浩嗣	情報システム工学科 榮坂 俊雄	情報システム工学科 三浦 則明	情報システム工学科 鈴木 正清	大 学 院 山田 貴延
	情報システム工学科 原田 康浩	情報システム工学科 鈴木 範男	情報システム工学科 渡辺 文彦		電気電子工学科
	化学システム工学科 山田 哲夫	化学システム工学科 三浦 宏一	化学システム工学科 伊藤 純一	化学システム工学科 鈴木 勉	学 部 田村 淳二
	化学システム工学科 高橋 行雄	化学システム工学科 星 雅之	化学システム工学科 伊藤 好二		学 部 谷本 洋
	機能材料工学科 宇都 正幸	機能材料工学科 渡邊 眞次	機能材料工学科 阿部 良夫	機能材料工学科 井上 貞信	大 学 院 田村 淳二
	土木開発工学科 櫻井 宏	土木開発工学科 伊藤 陽司	土木開発工学科 三上 修一	土木開発工学科 高橋 修平	大 学 院 谷本 洋
	土木開発工学科 澤田 正剛	土木開発工学科 高橋 清	土木開発工学科 後藤 隆司	土木開発工学科 川村 彰	情報システム工学科
					学 部 藤原 祥隆
					大 学 院 藤原 祥隆
					化学システム工学科
					学 部 鈴木 勉
					大 学 院 鈴木 勉
					機能材料工学科
					学 部 井上 貞信
					大 学 院 井上 貞信
					土木開発工学科
					学 部 高橋 修平
					学 部 川村 彰
					学 部 高橋 清
					大 学 院 高橋 修平
					大 学 院 川村 彰
					大 学 院 高橋 清

= 受賞 =**坂本弘志教授 日本機械学会北海道支部賞「研究技術賞」を受賞**

(機械システム工学科)

機械システム工学科坂本弘志教授は、本年3月札幌で開催された日本機械学会北海道支部年次総会において、平成14年度日本機械学会北海道支部賞研究技術賞を授与されました。対象となった研究は「吹雪障害防止のための新型高性能防雪柵の研究開発」であり、本研究結果が積雪寒冷地における冬期間の道路交通環境の改善に極めて有効であり、その製作と施工を通じ機械工業・土木関連分野など地域産業の活性化に貢献することが認められたものです。

坂本教授は、吹雪による道路交通障害を防止するための既存の防雪柵には機能上問題があること、並びに日本道路公団、国土交通省および各地方自治体等の道路維持管理者から高性能防雪柵開発に対する強い要望があることを背景に、新型高性能防雪柵の研究開発を長年に渡って推進してきました。研究開発の遂行に当っては、文部科学省科学研究補助金、ホクサイテック財団研究開発産業化促進補助金、ほくでん産業技術振興基金助成金等を受け、飛雪風洞によるモデル実験および数値シミュレーション解析に基

づいて、従来型防雪柵とはその形状が全く異なる新型の防雪柵を研究開発しました。開発された防雪柵には二つのタイプがあり、一つは2車線道路に用いる翼型防雪板を有する吹払い式防雪柵であり、他の一つは4車線道路に用いる翼型誘導板を有する飛翔型防雪柵であります。これら開発された防雪柵は、経済産業省の即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業の採択を受け、実物柵モデルを用いた実証試験によって従来型防雪柵に比べ極めて高い性能を有することが立証され、各方面から高い評価を得ました。その結果、開発された二つのタイプの防雪柵は、北海道はもとより東北地域においても採用され現在、設置総延長は5 km以上となり、その普及は今後急速に増大するものと期待されております。

この度の受賞は、地域に根ざした長年に渡る研究成果が認められたもので、皆様と共に喜びすると同時に、これを契機に更なる飛躍を遂げて頂きますように祈念致します。

= 寄稿 =

定年退官を迎えるにあたって

電気電子工学科 教授 林 義男



私は、昨年10月、65歳の誕生日を迎えました。いよいよ後1ヶ月をもって北見工業大学における教職生活に別れを告げることになり、今は無事に定年を迎えられることに心から感謝してい

ます。

昭和47年電気工学科に講師として赴任し、神谷先生（現情報システム工学科教授）の研究室に所属して、電気磁気学、電気計測、電磁波工学の授業を担当しました。1年後に電子工学科が設置され、昭和49年品田雄治、安住和彦、北川啓、林幸成の諸先生と共に電子工学科に移りました。一期生が4年次になった年に、学科主任になり就職を担当しました。電気工学科の伊藤彰美先生には就職担当教官の心構えから始まり、具体的な仕事の進め方まで懇切に教えて戴きました。電気系卒業生が40名から一挙に80名に増加し、折しも第一次石油ショックの影響もあって30名ほどの就職希望者に受験する会社を世話することもままならぬ状況でした。求人企業の開拓には、小松彝三先生、梅沢利二先生、品田雄治先生にお願いし、正月が過ぎてやっと全員の就職先が決まったときにはホッとしました。

1、2期生の頃は受験する会社を開拓するのは大変でしたが、受験の機会があればほとんどの学生が合格しました。その後は社会状況の変化に幸いしたこともあり、就職試験に不合格になるのは例外的なものでした。それに比べてこの数年の電気電子工学科の就職状況はかんばしいものではありません。求人は充分ありますが、一回の試験で内定を得る学生は半数にも達しません。長く続く不況のためと云ってしまえばそれまでですが、学生が無為に4年間を過ごし、企業が必要とする人材に育っていないのが大き

な要因かと考えます。近頃の学生は仕事を得て社会に貢献しようとする意気込みも、又基礎学力も以前の学生に比べて数段落ちています。

私は、電気工学科、電子工学科、電気電子工学科を通して、基礎科目である電気磁気学、電気回路のいずれか、又は両科目の一部を担当し、この30年間1年次の学生と接してきました。両科目とも高校の物理で履修済みのところから始めますので、新入生の基礎学力の大凡は把握できます。世間で取りざたされているように確かに年々新入生の学力は低下していますが、大学の授業についていけないほどには落ち込んでいません。しかし、卒業時における学力の低下は、以前と比べると雲泥の差がみられます。一方、大学は、学生数は大幅に増加し、建物は立派になり、研究設備も飛躍的に充実しました。大学院も設置され院生は機会ある毎に活発に学会で研究成果を発表します。個々の教官の研究業績は30年前とは比べられないほど立派です。外部機関との共同研究も活発で、外部資金の導入も大幅に増えています。これらの点では、他大学に勝ることがあっても、退けをとるようなことはありません。このように大学が飛躍的に発展したにもかかわらず、学生の学力や勉学意欲が低下したのはまったく不思議な現象です。

大学は今、法人化にむけて教育改革に取り組んでいます。現在のいびつな状態は、近い将来のバランスのとれた大学にたどり着くまでの過渡的なものであれば良いかと思っています。

30年間マイクロ波帯の受動回路の研究をしてきました。電子工学科の新設時に赴任された小柴正則先生（現北海道大学教授）が北大に去った後、北沢敏秀先生（現立命館大学教授）とコンビを組みました。その後、平山先生に変わり現在に到っています。林幸成先生とは電気工学科から電子工学科に移行した当初から一緒に仕事をしてきました。これらの諸先生方と共に研

究・教育に携われた幸運を感謝しています。
電気電子工学科の教職員の皆様とは、楽しい

10年間で過ごさせて戴きました。皆様長い間ほんとうにありがとうございました。

北のまほらばにて

機能材料工学科 教授 佐藤 充典



教官公募のファックスが勤務先に青木清教授から届き、そこに居合わせた私は、北見って何処にあるの？国立大学？急いで地図をひろげ、オホーツク圏、是非ということで直ちに応募書類をフ

ァックスしたのがつい昨日のように思いだされます。暫くして飛び石連休に大学に来るようにとの連絡を頂き、北見バスターミナルから道を尋ね煙突をみながら階段を昇って生協脇に辿りついたのが北見工大への第一歩でした。白樺並木と澄んだ空、ラグビーの練習に励む学生、それまで34年余国研にいた私には、なんともいえない心地よさと新鮮さをあたえてくれました。

1996年8月北見工大に赴任してからは、その前から細々としていた超伝導材料の研究に取り組みました。その内容は、(1)酸化物高温超伝導体(BiPb)SrCaCuO線材の高臨界電流密度化と高強度化、(2)(BiPb)SrCaCuOおよびR(BaCuO)(R:希土類元素)針状単結晶(ウィスカー)の育成とその固有ジョセフソン特性です。(2)の研究は、(1)の研究過程からでてきたものです。高臨界電流密度化には、磁束のピン止め、価数の異なる元素の置換などが有効との視点から、実験大好き学生が研究室にある酸化物を片っ端から添加して試料をつくっていたところ、ある日、「先生試料からヒゲが生えてきました」が発端です。これらの系の物質は超伝導層と絶縁層がジョセフソン結合していてこれが積層しているため、テラ(10¹²)Hz帯高周波素子の実現が期待されています。応用物理学会で発表したところ、高品位単結晶とその新しい育成方法は大きく注目されました。この学生は関連する国家

プロジェクトの研究者として望まれ、研究テーマをもって就職することになりました。研究室所属の院生は、学会発表はもとより学会誌に掲載された論文別刷をもって就職して行きました。学生は研究室に所属して先端研究に参画するようになると急に好奇心を発揮して生きいきと輝きだします。これを見ていると、研究環境が大学の魅力に反映することを強く感じます。研究に意欲ある学生に恵まれ、すばらしい感性にすばらな私は大いに刺激を受けました。

私は幸か不幸か国研が独立行政法人化する前に北見工大に移り、また国立大学が国立大学法人化する直前に定年退官になります。思えば私の奉職41年間の時代は、ひたすら豊かさを求めて先進国に追いつけ追い越せ、朝鶏が鳴く度に世の中のパイが大きくなり、この間物価上昇があたとはいえ、所得が10倍以上になりました。パイは国民にほぼ均等に分配され、貧富の格差の少ないジャパンアズナンバーワンともてはやされる国に到達する頃までは、生きいきと張り合いのあるよき時代でした。ところが世界第二の先進・経済大国にたどり着くと、さらなる膨張は永遠に続くべくもなく土地本位バブルの崩壊とともに、どこかの国のスタンダードが世界を席卷し、みんなで仲良くパイを分け合っのゆとりがなくなり、能力主義・出来高払いのぎすぎすした世の中に移行しつつあります。これらは水膨れ体質から適正体質へのダウンサイジングの時代に突入している現れのようなのです。

国立大学もこの波に曝され、法人化は、熾烈な生き残りゲームへの序章なのかもしれません。これを好機ととらえ北見工大が勝残る戦略の自由度は、結構広いのでは？と楽観的に考えています。すなわち、広大な北の大地道東と日本海

より広いオホーツク海の恵まれた資源をいかに活用できるかが、道東唯一の工業大学の双肩にかかっているからです。すでに我が国トップクラスの成果を誇る地域共同研究センターのさらなる充実、エネルギー・寒冷地・環境などの中核研究の充実、個々の教官の経常研究の高いポテンシャルがバランスよく三位一体となることによってますます発展することを確信しています。

6年8ヶ月の短い期間ではありましたが、学生の皆さんとの、研究討論合宿、山登り、温泉、焼き肉と楽しく過ごさせて頂きました。この間に私は、道東の山野徘徊と露天風呂、オホーツクの海の幸での一杯を満喫しました。

北見工業大学のますますの発展と皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げます。

蛇足

その1 これからの大学の教育・経常的研究の経費維持に危惧を抱いています。均等割りの先細りは目に見えています。科研費・プロジェクト研究費・企業助成金などの外部資金導入が必須の世知辛い世になるのでしょうか？

本来大学は、真理の探究、知的好奇心を充たすための貴族の花見、紅葉狩りのようなまほらばであったと思います。これが庶民に開放された今、花見に行けば山菜、紅葉狩りに行けば茸

と少々俗っぽく実利になるのは時代の流れでしょう。しかし、山菜と茸だけに目の向く即物的世の中には瘦我慢してもなほしくありません。

その2 自国語で書かれた書物・学術書をもつ国は文化の高さを象徴していると思います。最近ではどこかの国の戦略的陰謀か、インパクトファクターなる怪物が幅をきかせつつあります。やがて和文論文誌は？と憂えています。私自身学生の将来を考えるとインパクトファクターの高い欧文誌に投稿となり忸怩たる思いの自己矛盾です。なにかよい知恵と対策はあるのでしょうか？

その3 ゆとり教育とやらで円周率3を耳にします。正六角形・亀甲と同じ周率でよいのでしょうか？無限に続く割り切れない数字の魅力はどうなるのでしょうか？ゆとり教育が「ものづくり」に大切な理数学力の低下を招いているように思えてなりません。

一方、我われは地球の裏側へ一日で行ける今、これ以上の豊かさ・便利さが人類の幸せに必要なのでしょうか？携帯電話・インターネット、缶・ペット入り飲料は道徳の低下を助長する負の部分が目立ちます。

研究を終わり、学生が周りにいなくなって、春の来ない初冬を迎え寂莫たる思いの脳天気な私の繰り言をお許してください。

= 諸報 =

外国人留学生スキー研修

(教務課)

1月10日(金)、在学中の外国人留学生と家族を対象に「外国人留学生スキー研修」を実施しました。

スキー研修は4人の指導員の指導を受けて、能力別に3グループに分かれてレッスンが行われました。

今年の参加者は雪の全くない国からの留学生で、スキー未経験者が20人以上と多かったので、指導員に加え本学のボランティア日本大学生がアシスタントとして付きっきりで指導した結果、初めのうちは立ち上がることもできなかった人も、昼までにはリフトに乗って、ゆっくり滑り降りることができるまでに上達しました。

午後は指導員がコース途中で待機して自由に滑ることになり、上達した人も、それなりの人

もリフトとコースを何回も往復していました。

当日、午前中は暖かく、留学生は疲れも忘れ休憩を返上して、終了時間間際までスキーを楽しんでおりました。

帰りのバスの中でもスキーの話題で一杯で、すっかりウインタースポーツに目覚めた様子でした。



「教育優秀者」による授業の公開

(教務課)

去る、1月27日から2月4日までの間、「教育優秀者」を受賞した教官による授業を教職員と報道機関に対して公開しました。

なお、学生による授業評価は、平成6年度から実施し、平成13年度には、これによる優秀な授業評価を受けた教官を対象に「教育優秀者賞」を新たに設けて、各学科1名の教官(6学科、

1共通講座計7名)

を表彰しました。

また、「教育優秀者」には、学長裁量経費の重点配分も行っています。

今回の授業の公開は、

これらの「教育優秀

者」教官の授業を公開して

教育指導方法の参考とするために実施したものです。

なお、この様子はNHKテレビでも放送されました。



公開授業を行う星雅之助教授



聴講する教職員

第2回外国人留学生見学旅行

(教務課)

9月26日(木)~27日(金)に実施した「第1回外国人留学生見学旅行」に参加できなかった留学生と新入留学生を対象として「第2回外国人留学生見学旅行」を2月1日(土)に実施しました。

今回は日帰りで紋別地方を訪れ、冬のオホーツク地方文化を知るため流氷とオホーツクタワー・オホーツク流氷科学センターを見学しました。

まず流氷見学では、吹雪の中、ガリンコ号の船室を出て港を覆っている「蓮の葉氷」を見て、



ガリンコ号で一休み

留学生も歓声をあげていました。次にオホーツクタワーを訪れ、オホーツクの海底の様子や可愛いクリオネを見学しました。最後のオホーツク流氷科学センターでは、氷点下20度を体験し、流氷の実物を見た後、アストロビジョン(全天周映像)で360度の映像に驚きの声をあげていました。

帰りはさすがに疲れたらしく、全員熟睡していましたが、冬のオホーツク地方文化を知るという目的を達成し、無事第2回見学旅行を終了しました。



流氷科学センターマイナス20度

「2003年留学生交流の夕べ」を開催

(教務課)

3月10日(月)市内のホテルにおいて、外国人留学生と北見市内の国際交流関係者、ホストファミリー、本学関係者など合わせて約150名の方々が参加して「2003年留学生交流の夕べ」を開催しました。

本学では、本年度61名の留学生を受け入れており、このうちの11名が今春卒業・修了しました。そのうち4名は大学院後期課程に進学し、7名が北見工大を離れました。

また、昨年4月からの新留学生は、正規学生だけでも15名が本学で学んでおります。

常本学長からの挨拶に続いて、「北見工大で



留学生報告会

の研究生生活」と題して、卒業・修了する留学生と期間終了の短期交換留学生による報告会が行われました。報告会では研究室での活動を中心に、苦しかった研究のことや生活面での色々なエピソードが披露されました。

報告会終了後、パーティーが開催され、学長から卒業・修了生への記念品贈呈、新入留学生の紹介が行われました。

パーティーは、ホストファミリーや支援団体の方々など日頃から留学生がお世話になっているの方々との懇談に移り、なごやかな雰囲気のうち閉会しました。



パーティー風景

網走支庁管内 4 大学間で単位互換協定締結

(教 務 課)

網走支庁管内の北海学園北見大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学及び北見工業大学の 4 大学間で、平成15年度から単位互換制度を導入することに合意し、3月17日に 4 大学の学長が北見工業大学で協定締結式を実施しました。

式には 4 大学の関係者17名が出席し、北見工業大学の常本学長が代表挨拶を行い続いて報道機関に対して北見工業大学高橋副学長から詳細について説明しました。

この制度は、各大学が相互に特色ある講義を開放し、学生が幅広い知識を学ぶことを目的としています。

各大学とも学部 1 年次から 4 年次までの全学生を対象としており、検定料・入学料・授業料は徴収しないこととしています。受講できる科目は大学によって異なるが、それぞれの得意の分野から設定することとして調整中です。

4 大学の学部学生は、今回の協定で他分野の幅広い授業科目を履修でき、多様性のあ

る教育を受けられることとなっています。

また、4 大学はこれを機会に学生及び教育研究等の種々の交流に発展させ、地域貢献につなげていくことを確認しました。

単位互換の 4 大学及び学部

北海学園北見大学	商学部
東京農業大学	生物産業学部
日本赤十字北海道看護大学	看護学部
北見工業大学	工学部



左から、東京農業大学 進士学長、北海学園北見大学 大前商学部長、北見工業大学 常本学長、日本赤十字北海道看護大学 松木学長

ガスハイドレート研究および関連トピックスに関する国際ワークショップ開催

(未利用エネルギー研究センター)

去る3月1日(土)から2日(日)の2日間にわたり、本学 A105講義室を会場として、「ガスハイドレート研究および関連トピックスに関する国際ワークショップ」が開催されました。

このワークショップは、未利用エネルギー研究センターが平成15年夏から予定しているオホーツク海メタンハイドレートの本格的な調査研究を前に、国内外の代表的研究者を招き、これまでのガスハイドレート研究で得られた成果を披露し、ガスハイドレート鉱床の生成過程を理解するための情報交換を行うと共に、同研究分野における問題点を認識することを目的として開催されたものです。

2日間の開催期間中は、多数の参加者により専門の枠をこえた熱心な討論がくりひろげられ、盛況のうちに終了しました。この国際ワークショップを契機として、今後の国際共同研究の推進及びメタンハイドレートを中心とした未利用エネルギーに関する研究領域のさらなる発展が期待されます。

プログラム概要

平成15年3月1日(土)

開会挨拶 常本 秀幸 北見工業大学長
第1セッション；海底下のガスハイドレート鉱床

招待講演



ワークショップセッション風景

「オホーツク海におけるガスハイドレートとメタンガス異常」

Anatoly Obzhurov (ロシア科学アカデミー極東支所 V.I.イリチエフ太平洋海洋学研究所ガス地球化学研究室長・教授)

招待講演

「オホーツク海のメタンガス湧出に関する音響地球化学および海底物理探査 - 露独共同研究プロジェクト、コメックスの成果 - 」

Nicole Biebow (ドイツ テティス・ジオコンサルティング GmbH・第1 マネージャー)

招待講演

「南極半島周辺域におけるガスハイドレートの生成」

Young Keun Jin (韓国海洋研究開発研究所 (KORDI)極地科学研究室・主任研究員)

一般講演：2件

メタンハイドレート燃焼公開実験

平成15年3月2日(日)

第1セッション；海底下のガスハイドレート鉱床(続き)

一般講演：2件

第2セッション；ガスハイドレートの物理的・化学的性質



招待講演中の Anatoly Obzhurov 博士

一般講演：4件
 特別講演（日本語通訳付き）：1件
 第3セッション；ガスハイドレートの利用
 一般講演：1件
 メタンハイドレート燃焼公開実験

第4セッション；－その他の関連トピックス
 一般講演：2件
 閉会挨拶 庄子 仁 北見工業大学未利用エネ
 ルギー研究センター長

外国人研究者の受入れ

（総務課）

氏名 国籍・年齢	受入学科 職名・氏名	研究題目	受入期間
(モハド リシャム ジャファル) Mohd Risham Jaafar マレーシア・25才	土木開発工学科 教授 大島 俊之	振動計測による構造物の健全度診断に関する研究	H15 .2 .1 ~ H15 .2 28
(ガイ ギョウキ) 蓋 曉 輝(Gai Xiaohui) 中華人民共和国・33才	機械システム工学科 教授 二俣 正美	ホローカソード型プラズマトーチを用いた溶射プロセスの高度化	H15 .4 .1 ~ H16 .3 31 (受入期間延長)
(ワン ホンウエイ) 王 宏 偉(Wang Hongwei) 中華人民共和国・39才	化学システム工学科 教授 吉田 孝	木タールの炭素繊維化	H15 .4 .1 ~ H16 .3 31

= 規程 =**北見工業大学学則の一部を改正する学則**

平成15年2月19日
北工大達第1号

北見工業大学学則（昭和41年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第28条第4号中「入学料の免除を不許可とされた者又は半額免除を許可された者で、」を削る。

第40条中「入学料免除の申請をした者に対しては」を「特別の事由があり、入学料の納付期限までに納付が困難な場合は」に改め、「その者に係る」を削る。

附則

この学則は、平成15年2月19日から施行し、平成15年度入学者から適用する。

改正理由

「国立学校における入学料の免除に関する取扱要項の一部改正について」（平成14年12月26日付け14文科高第663号文部科学省高等教育局長通知）に基づく所要の改正

北見工業大学授業料等免除及び徴収猶予に関する規程の一部を改正する規程

平成15年2月19日
北工大達第2号

北見工業大学授業料等免除及び徴収猶予に関する規程（昭和41年10月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2条の見出しを「（入学料の免除の基準）」に改め、同条第1項中「学生（研究生、科目等履修生等を除く。以下同じ。）」を「入学する者（研究生、科目等履修生等として入学する者を除く。以下同じ。）」に改め、同項第1号を次のように改める。

- 一 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が困難であると認められる場合

第2条第2項中「学生」の次に「（研究生、科目等履修生等を除く。以下同じ。）」を加え、同項第3号中「「入学料免除を不許可とした者又は半額免除を許可した者」を「入学科の免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可した者」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「入学料免除を不許可とした者及び半額免除の許可をした者」を「入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者」に、「第3条第2項に規定する期間内において死亡したことにより」を「第3条の2第3項に規定する期間内において、死亡したことにより」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号中「入学料免除の申請をした者」

を「入学料の免除又は徴収猶予の申請をした者」に、「第3条第1項により徴収を猶予している期間内において死亡したことにより」を「第3条の2第2項により徴収を猶予している期間内において、死亡したことにより」に改め、同号を同項第2号とし、同項に第1号として次の1号を加える。

一 入学料の徴収猶予の申請をした者について、第3条の2第1項により徴収猶予を許可されている期間内において、死亡したことにより除籍された場合

第3条を次のように改める。

(入学料の徴収猶予の基準)

第3条 入学する者が次の各号の一に該当する場合は、入学料の徴収を一定期間猶予することができる。

一 経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

二 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合

三 前号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

2 入学料の免除を申請した者については、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請を行うことができるものとする。

第3条の次に次の1条を加える。

(入学料の徴収猶予の期間等)

第3条の2 入学料の徴収猶予の期間は、当該入学年度の2月末日までとする。

2 入学料の免除又は徴収猶予の判定期間中は、免除又は徴収猶予の申請をした者に係る入学料の徴収を猶予する。

3 入学料の免除若しくは徴収猶予が不許可とされた者又は半額免除の許可をされた者(第3条第2項により徴収猶予を申請した者を除く。)は、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に入学料を納付しなければならない。

第4条第2号中「学生の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡するか、学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたために授業料の納付が困難と認められる場合」を「学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が困難であると認められる場合」に改める。

第8条の見出しを「(免除及び徴収猶予の申請)」に改め、同条第1項中「を希望する学生」を「を希望する者」に改め、「(様式1, 2又は3)に理由を詳記し、様式4(行方不明による授業料の徴収猶予の場合を除く。)」及び同項の様式1から様式4までを削り、同条第2項中「第2条第2項各号」の次に「、第3条第2項、」を加える。

第9条中「第2条第1項各号」の次に「、第3条第1項各号」を加える。

第10条(見出しを含む。)中「入学料免除」を「入学料の免除及び徴収猶予」に改める。

第12条の見出しを「(許可の取消し)」に改め、同条中「授業料免除」を「入学料、授業料の免除」に改める。

附 則

この規程は、平成15年2月19日から施行し、平成15年度入学者から適用する。

改正理由

「国立学校における入学料の免除に関する取扱要項の一部改正について」(平成14年12月26日付

け14文科高第663号文部科学省高等教育局長通知)に基づく所要の改正

北見工業大学学則の一部を改正する学則

平成15年3月5日

北工大達第3号

北見工業大学学則(昭和41年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第32条第1項の表中

電気電子工学科	70単位	4単位	10単位	35単位以上	5単位以上	124単位以上	」を
電気電子工学科	71単位	4単位	10単位	34単位以上	5単位以上	124単位以上	」に、
化学システム工学科	66単位	4単位	10単位	44単位以上		124単位以上	」を
化学システム工学科	62単位	4単位	10単位	48単位以上		124単位以上	」に、
土木開発工学科	73単位	4単位	10単位	27単位以上	10単位以上	124単位以上	」を
土木開発工学科	74単位	4単位	10単位	26単位以上	10単位以上	124単位以上	」に

改める。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)機械システム工学科必修科目の表中

図形科学	講義 演習	3	3							講義2単位 演習1単位	」を
創造基礎	講義 演習	3	3							講義2単位 演習1単位	」に改める。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)機械システム工学科選択科目ⅡBの表中

内燃機関システム工学	講義	2				2				」を
内燃機関システム工学	講義	2				2				」に改める。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)電気電子工学科必修科目の表中

計算機プログラミング	講義 演習	2		2						講義1単位 演習1単位	」を
計算機プログラミング	講義 演習	3		3						講義2単位 演習1単位	」に、

「小計 70 31 24 8 7」を

「小計 71 31 25 8 7」に改める。

別表Ⅰ（第30条、第32条関係）電気電子工学科選択科目Ⅱの表中

「メカトロニクス 講義 2」を

「メカトロニクス 講義 2」に、

「小計 77 6 11 34 20」を

「小計 77 6 11 36 18」に、

注を次のように改める。

- 注 1 選択科目Ⅱから34単位以上修得しなければならない。
- 2 選択科目Ⅱの34単位のうち電気電子工学実習Ⅰ及びⅡについては、いずれか1単位を認めることができる。
- 3 選択科目Ⅱの34単位のうち6単位までは他学科の授業科目での充当を認めることができる。ただし、同名及び同内容の科目は除く。
- 4 表中の（ ）内単位数は、小計欄の各年次別開設単位数には含まない。

別表Ⅰ（第30条、第32条関係）化学システム工学科必修科目の表中

物理学実験	実験	1	1								
総合化学	講義	2	2								
工業数学Ⅰ	講義	2		2							

」を

物理学実験	実験	1	1								
工業数学Ⅰ	講義	2		2							

」に、

分析化学Ⅰ	講義 演習	2		2							講義1単位 演習1単位
分析化学Ⅱ	講義	2		2							

」を

分析化学	講義 演習	2		2							講義1単位 演習1単位
------	----------	---	--	---	--	--	--	--	--	--	----------------

」に、

「小計 66 37 18 6 5」を

「小計 62 35 16 6 5」に改める。

別表Ⅰ（第30条、第32条関係）化学システム工学科選択科目Ⅱの表中

機器分析	講義	2			2						
化学システム工学特別実習Ⅰ	実習	1		1							

」を

機器分析	講義	2			2						
センサ工学	講義	2			2						
化学システム工学特別実習Ⅰ	実習	1		1							

」に、

基礎高分子化学	講義	2				2				
環境計測	講義	2					2			
反応プロセス工学	講義	2				2				

」を

基礎高分子化学	講義	2				2				
反応プロセス工学	講義	2				2				

」に、

生物有機化学	講義	2				2				
生物無機化学	講義	2					2			
外国語文献講読	講義	2					2			

」を

生物有機化学	講義	2				2				
外国語文献講読	講義	2					2			

」に、

小	計	78	8	15	43	6				
---	---	----	---	----	----	---	--	--	--	--

」を

小	計	76	8	17	41	4				
---	---	----	---	----	----	---	--	--	--	--

」に、

注を次のように改める。

- 注 1 選択科目Ⅱから48単位以上修得しなければならない。
 2 選択科目Ⅱの48単位のうち化学システム工学特別実習Ⅰ及びⅡについては、いずれか1単位を認めることができる。
 3 選択科目Ⅱの48単位のうち10単位までは他学科の授業科目での充当を認めることができる。ただし、同名及び同内容の科目は除く。
 4 表中の()内単位数は、小計欄の各年次別開設単位数には含まない。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)機能材料工学科必修科目の表中

材料物理Ⅰ	講義	2	2							
材料物理Ⅱ	講義	2	2							

」を

基礎生物化学	講義	2	2							
材料物理学	講義	2	2							

」に改める。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)機能材料工学科選択科目Ⅱの表中

分子工学Ⅱ	講義	2			2					
有機構造解析	講義	2			2					
無機構造解析	講義	2			2					
機器材料分析	講義	2			2					
電子物理基礎	講義	2			2					
金属材料工学Ⅰ	講義	2			2					
高分子材料概論	講義	2			2					
材料電気化学	講義	2				2				
無機材料物性	講義	2				2				

」を

無機構造解析	講義	2			2						
分子工学Ⅱ	講義	2				2					
有機構造解析	講義	2				2					
機器材料分析	講義	2				2					
電子物理基礎	講義	2				2					
金属材料工学Ⅰ	講義	2				2					
高分子材料概論	講義	2				2					
材料電気化学	講義	2					2				

」に、

表面科学	講義	2						2			
複合材料工学	講義	2						2			
無機材料合成	講義	2						2			

」を

表面科学	講義	2						2			
無機材料合成	講義	2						2			

」に、

小計	70			23	39	2					
----	----	--	--	----	----	---	--	--	--	--	--

」を

小計	66			23	35	2					
----	----	--	--	----	----	---	--	--	--	--	--

」に改める。

別表Ⅰ（第30条、第32条関係）土木開発工学科必修科目の表中

電子計算機プログラミング 及び同演習	講義 演習	3	3								講義2単位 演習1単位
工業数学Ⅰ	講義	2			2						

」を

情報科学概論	講義 演習	2	2								講義1単位 演習1単位
電子計算機プログラミング 及び同演習	講義 演習	2		2							講義1単位 演習1単位
工業数学Ⅰ	講義	2			2						
工業倫理	講義	2		2							

」に、

土質工学Ⅰ	講義	2			2						
土質工学Ⅱ	講義	2				2					
土質工学実験	実験	1							1		
コンクリート工学Ⅰ	講義	2				2					

」を

寒地土質工学Ⅰ	講義	2			2						
寒地土質工学Ⅱ及び同演習	講義 演習	2				2					講義1単位 演習1単位
地盤工学実験	実験	1						1			
コンクリート工学	講義	2				2					

」に、

「	土 木 計 画 学	講義	2				2					
	雪 氷 学 I	講義	1		1							
	凍 土 学	講義	1					1				
	雪 氷 学 II	講義	1		1							
	岩 盤 工 学 II	講義	2				2					
	土 木 地 質 学 演 習	演習	1						1			
	土 木 施 工 法	講義	2				2					
	土 木 行 政	講義	2						2			
	火 薬 学	講義	2		2							
	数 値 計 算 演 習	演習	1						1			
	ガスハイドレート工学入門	講義	2						2			

」に、

「	小	計	63		11	29	17					」を
---	---	---	----	--	----	----	----	--	--	--	--	----

「	小	計	56		11	28	11					」に、
---	---	---	----	--	----	----	----	--	--	--	--	-----

注を次のように改める。

- 注 1 選択科目Ⅱから26単位以上修得しなければならない。
- 2 選択科目Ⅱの26単位のうち土木開発特別実習Ⅰ及びⅡについては、いずれか1単位を認めることができる。
- 3 選択科目Ⅱの26単位のうち6単位までは他学科の授業科目での充当を認めることができる。ただし、同名及び同内容の科目は除く。
- 4 表中の()内単位数は、小計欄の各年次別開設単位数には含まない。

別表Ⅰ(第30条、第32条関係)土木開発工学科選択科目Ⅲの表中

「	地 球 科 学 II	講義	1		1							
	情 報 科 学 概 論	講義 演習	2	2								講義1単位 演習1単位
	小	計	21	19	2							」を

「	地 球 科 学 II	講義	1		1							
	小	計	19	17	2							」に改める。

別表Ⅰ（第30条、第32条関係）選択科目ⅠB（各学科共通）の表中

人間の心理と生理	講義	2		2				必修
健康科学	講義	2		2				必修
思想のあゆみ	講義	2		2				必修
哲学史	講義	4			4			選択
精神生理学	講義	4			4			選択
健康とスポーツ科学	講義	4			4			選択
哲学のすすめ	講義	2		2				必修
言語の構造と機能	講義	2		2				必修
認知心理学入門	講義	2		2				必修
哲学	講義	4			4			選択
現代言語学	講義	4			4			選択
人間の記憶過程	講義	4			4			選択

」を

科学・技術と人間	講義	2		2				必修
健康科学	講義	2		2				必修
思想のあゆみ	講義	2		2				必修
哲学史	講義	4			4			選択
科学・技術の歴史	講義	4			4			選択
健康とスポーツ科学	講義	4			4			選択
哲学のすすめ	講義	2		2				必修
言語の構造と機能	講義	2		2				必修
科学・技術的知識論	講義	2		2				必修
哲学	講義	4			4			選択
現代言語学	講義	4			4			選択
科学・技術の基礎理論	講義	4			4			選択

」に改める。

附則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に改正前の学則により授業科目を履修する者については、この学則による改正後の学則第30条第1項及び第32条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

改正理由

より適切な教育効果を期するための所要の改正

北見工業大学総務委員会規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日

北工大達第4号

北見工業大学総務委員会規程（平成3年北工大達第26号）の一部を次のように改正する。

第2条中第3号を削り、第4号を第3号とし、第5号を第4号とし、第6号を第5号とし、第7号及び第8号を削り、第9号を第6号とし、第8号から第14号までを3号ずつ繰り上げる。

附則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

地域連携推進委員会及び情報システム運営委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学安全管理・環境対策委員会規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日

北工大達第5号

北見工業大学安全管理・環境対策委員会規程（平成10年北工大達第5号）の一部を次のように改正する。

第3条中第12号を第13号とし、第9号から第11号までを1号ずつ繰下げ、第8号の次に次の1号を加える。

九 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長

第4条中「第10号及び第11号」を「第11号及び第12号」に改める。

附則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長を委員に加えるための所要の改正

北見工業大学地域連携推進委員会規程

平成15年3月5日

北見工大達6号

(設置)

第1条 本学における地域等との連携を一体的、効果的に推進するための重要な事項を審議するため、北見工業大学地域連携推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 地域共同研究センターに関する重要な事項
- 二 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに関する重要な事項
- 三 教育における地域等との連携に関する重要な事項
- 四 知的財産に関する事項
- 五 その他地域等との連携に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副学長
- 二 地域共同研究センター長
- 三 事務局長
- 四 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
- 五 各学科から選出された教授会構成員 各1人
- 六 共通講座から選出された教授会構成員 1人
- 七 その他学長が必要と認めたる者

(任期)

第4条 前条第5号及び第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長が氏名する副学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き議決することができない。

- 2 議事は出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理者)

第7条 第3条第5号及び第6号の委員に事故あるときは、代理者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ説明又は意見を求めることができる。

(専門委員会)

第9条 委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、総務課が行う。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

制定理由

本学に地域連携推進委員会を置くための所要の制定。

北見工業大学情報システム運営委員会規程

平成15年3月5日

北工大達第7号

(設置)

第1条 本学における情報システム化の推進のための重要な事項を審議するため、北見工業大学情報システム運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 情報処理センターに関する重要な事項
- 二 情報システムの安全に関する事項
- 三 事務電算化の推進に関する事項
- 四 その他本学の情報システム化に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副学長(総務・研究担当)
- 二 附属図書館長
- 三 事務局長
- 四 情報処理センター長
- 五 各学科から選出された教授会構成員 各1人
- 六 共通講座から選出された教授会構成員 1人
- 七 その他学長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第5号及び第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き議決することができない。
2 議事は出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理者)

第7条 第3条第5号及び第6号の委員に事故あるときは、代理者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ説明又は意見を求めることができる。

(専門委員会)

第9条 委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、総務課において行う。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

制定理由

本学に情報システム運営委員会を置くための所要の制定。

北見工業大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日

北工大達第8号

北見工業大学受託研究取扱規程(昭和45年10月21日制定)の一部を次のように改正する。

第12条を第13条とする。

第11条に次の1項を加え、同条を第12条とする。

2 受託研究による研究成果は、原則として公表するものとする。

第10条第3項中「受託者」を「委託者」に改め、同条第4項を削り、同条の次に次の1条を加える。

(研究成果の報告)

第11条 学長は、受託研究実施期間中に得られた研究成果について、報告書を取りまとめるものとする。

第3条第1項中「旅費」の下に「、研究支援者等の人件費」を加え、同項なお書きを削り、同条第2項及び第3項を次のように改める。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、直接経費のみを負担させるものとする。

- 一 委託者が国（国以外の団体等で国からの補助金等を受け、その再委任により研究を委託することが明確なものを含む。以下同じ。）である場合。
- 二 次のいずれかに該当する場合で、学長が真にやむを得ないと認める場合
 - イ 委託者が特殊法人、認可法人、独立行政法人又は地方公共団体であって、財政事情で間接経費がない場合
 - ロ 委託者が前号以外の場合で、従前より直接経費のみを受け入れていた研究課題で、継続して受け入れる場合
 - ハ 競争的資金による研究費のうち、当該研究費に係る間接経費が措置されていない場合。
- 三 競争的資金による研究費における間接経費の額は、直接経費の30%に相当する額とする。ただし、委託者側の事情により直接経費の30%に相当する額と異なる額となる場合には、学長と委託者が合意した額とする。
- 四 競争的資金以外の研究費における間接経費は、直接経費の30%に相当する額を標準とする。ただし、直接経費の30%に相当する額と異なる額とする場合には、学長は、あらかじめ文部科学省研究振興局長に協議するものとする。

第2条を次のとおり改める。

（受入れの条件）

第2条 受託研究の受入れの条件は、次の各号に掲げるものとする。

- 一 受託研究は委託者が一方的に中止することはできないこと。ただし、委託者から中止の申し出があった場合には、委託者と協議のうえ、中止を決定することができること。
 - 二 受託研究の結果、知的所有権（受託研究の取扱について（平成14年3月29日付け13文科振第1179号文部科学省研究振興局長及び同省大臣官房会計課長通知）の（注）1に定める権利をいう。）の権利が生じた場合には、これを無償で使用させ、又は譲与することはできないこと。ただし、国以外の者から委託を受けて行った研究については、研究交流促進法（昭和61年法律第57号）第7条の規定に基づきその成果に係る国有の特許権又は実用新案権の一部を当該国以外の者に譲与することができること。
 - 三 受託研究に要する経費により取得した設備等は、委託者に返還しないこと。
 - 四 やむを得ない事由により委託研究を中止し、又はその期間を延長する場合においても、本学はその責を負わないこと。この場合、委託者にその事由を書面により通知すること。
 - 五 受託研究を完了し、又は中止し、若しくはその期間を変更した場合において、受託研究に要する経費の額に不用が生じ、かつ、委託者から不用になった額について返還の請求があった場合には返還すること。ただし、委託者の申し出により中止する場合には、原則として受託研究に要する経費は返還しないこと。
 - 六 委託者は受託研究に要する経費を当該研究の開始前に納付すること。
- 2 前項各号に定めるもののほか、学長が特に必要と認める条件は別に定めることができる。
 - 3 学長は委託者が国の機関若しくは公社、公庫、公団等政府関係機関、地方公共団体又は独立行政法人である場合には、契約担当官と協議の上、第1項第3号及び第6号の条件を付さないことができるものとする。
- 第1条中「外部」を「民間等外部の機関（以下「委託者」という。）」に改める。

附 則

この規程は、平成15年3月5日から施行する。

改正理由

「受託研究の取扱いについて」（平成14年3月29日付け13文科振第1179号文部科学省研究振興局長及び同省大臣官房会計課長通知）に基づく所要の改正

北見工業大学学生交流規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日
北工大達第9号

北見工業大学学生交流規程（昭和61年北工大達第6号）の一部を次のように改正する。

第2条第2項を次のように改める。

- 2 前項の規定により出願できる学生の範囲は、学部及び大学院の学生とする。ただし、他の大学等との協議により、対象学生が定められた場合は、当該協議による。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

より適切な教育効果を期するための所要の改正

北見工業大学地域共同研究センター規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日
北工大達第10号

北見工業大学地域共同研究センター規程（平成4年北工大達第6号）の一部を次のように改正する。

第6条中「総務委員会」を「地域連携推進委員会」に改める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

地域連携推進委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員 受入規程の一部を改正する規程

平成15年 3月 5日
北工大達第11号

北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員受入規程（平成13年北工大達第33号）の一部を次のように改正する。

第3条第2項中「総務委員会」を「地域連携推進委員会」に改める。

附 則

この規程は、平成15年 4月 1日から施行する。

改正理由

地域連携推進委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学情報処理センター規程の一部を改正する規程

平成15年 3月 5日
北工大達第12号

北見工業大学情報処理センター規程（昭和63年北工大達第12号）の一部を次のように改正する。

第4条中「総務委員会」を「情報システム運営委員会」に改める。

附 則

この規程は、平成15年 4月 1日から施行する。

改正理由

情報システム運営委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学情報処理センター利用内規の一部を改正する内規

平成15年3月5日

北工大達第13号

北見工業大学情報処理センター利用内規（平成元年北工大達第9号）の一部を次のように改正する。

第8条第2項中「総務委員会」を「情報システム運営委員会」に改める。

附則

この内規は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

情報システム運営委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日

北工大達第14号

北見工業大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー規程（平成14年北工大達第8号）の一部を次のように改正する。

第7条中「総務委員会」を「地域連携推進委員会」に改める。

附則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

改正理由

地域連携推進委員会の設置に伴う所要の改正

北見工業大学大学院規程の一部を改正する規程

平成15年3月5日

北工大達第15号

北見工業大学大学院規程（昭和59年北工大達第8号）の一部を次のように改正する。

別表Ⅰ（第9条の2関係）博士前期課程機械システム工学専攻の表中

「	計算機援用加工学特論	講義	2		2			
	機械制御特論	講義	2	2				」を

「	計算機援用加工学特論	講義	2		2			
	線形システム解析特論	講義	2	2				
	機械制御特論	講義	2		2			」に、

「	合	計	47		47			」を
---	---	---	----	--	----	--	--	----

「	合	計	49		49			」に改める。
---	---	---	----	--	----	--	--	--------

別表Ⅰ（第9条の2関係）博士前期課程電気電子工学専攻の表中

「	薄膜工学特論	講義	2	2				
	合	計	38		38			」を

「	薄膜工学特論	講義	2	2				
	線形ロバスト制御特論	講義	2		2			
	合	計	40		40			」に改める。

別表Ⅰ（第9条の2関係）博士前期課程化学システム工学専攻の表中

「	トレースアナリシス	講義	2		2			
	環境科学特論	講義	2		2			
	応用分析化学	講義	2	2				
	生物化学工学特論	講義	2	2				
	化学システム工学特別講義	講義	1		1			
合	計	39		39			」を	

「	環境科学特論	講義	2		2			
	応用分析化学	講義	2	2				
	生物化学工学特論	講義	2	2				
	環境材料設計特論	講義	2		2			
	化学情報処理	講義	2	2				
	化学システム工学特別講義Ⅰ	講義	1		1			
	化学システム工学特別講義Ⅱ	講義	1		1			
合	計	42		42			」に改める。	

別表Ⅰ（第9条の2関係）博士前期課程各専攻共通の表中

「	生体機能分子特論Ⅰ	講義	2		2				
	生理活性物質構造論Ⅰ	講義	2		2				
	バイオセンサー材料特論	講義	2		2				
	ベンチャービジネス特論	講義	2		2				
	リスク・マネジメント概論	講義	2			2			
合	計		16	14		2			」を

「	疾病の基礎構造Ⅰ	講義	2		2				
	生理活性物質構造論Ⅰ	講義	2		2				
	ベンチャービジネス特論	講義	2	2					
	リスク・マネジメント概論	講義	2		2				
合	計		14	14					」に改める。

別表Ⅱ（第9条の2関係）博士後期課程システム工学専攻の表中

「	電気電子システム工学特論	講義	2	2					
	流れ制御工学特論	講義	2	2					」を

「	電気電子システム工学特論	講義	2	2					
	非線形システム制御特論	講義	2	2					
	流れ制御工学特論	講義	2	2					」に、

「	合	計		124	124					」を
---	---	---	--	-----	-----	--	--	--	--	----

「	合	計		126	126					」に改める。
---	---	---	--	-----	-----	--	--	--	--	--------

別表Ⅱ（第9条の2関係）博士後期課程物質工学専攻の表中

「	応用分析化学特論Ⅰ	講義	2	2					
	応用分析化学特論Ⅱ	講義	2	2					」を

「	応用分析化学特論	講義	2	2					」に、
---	----------	----	---	---	--	--	--	--	-----

「	環境水質化学特論	講義	2	2					」を
---	----------	----	---	---	--	--	--	--	----

「	環境水質化学特論	講義	2	2					
	アメニティ材料工学特論	講義	2	2					」に、

「	多孔質機能材料特論	講義	2	2					
	合	計		64	64				」を

「	多孔質機能材料特論	講義	2	2					
	応用化学情報処理特論	講義	2	2					
合	計		66	66					」に改める。

別表Ⅱ（第9条の2関係）博士後期課程各専攻共通の表中

「	生体機能分子特論Ⅱ	講義	2	2					
	生理活性物質構造論Ⅱ	講義	2	2					
	バイオセンサー工学特論	講義	2	2					
合 計			12	12					」を

「	疾病の基礎構造Ⅱ	講義	2	2					
	生理活性物質構造論Ⅱ	講義	2	2					
合 計			10	10					」に改める。

附 則

- この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- この規程施行の際、現に改正前の規程により授業科目を履修する者については、この規程による改正後の規程第9条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

改正理由

より適切な教育効果を期するための所要の改正

北見工業大学教育課程履修規程の一部を改正する規程

平成15年3月19日
北工大達第16号

北見工業大学教育課程履修規程（昭和42年2月9日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項第1号の表中

「	電気電子工学科	54単位以上	Aから4単位以上	24単位以上 （他学科の科目を6単位まで認める）	5単位以上	
			Bから6単位以上			

「	電気電子工学科	55単位以上	Aから4単位以上	24単位以上 （他学科の科目を6単位まで認める）	5単位以上	
			Bから6単位以上			

「	化学システム工学科	51単位以上	Aから4単位以上	32単位以上 （他学科の科目を6単位まで認める）		
			Bから6単位以上			

化学システム工学科	47単位以上	A から 4 単位以上 B から 6 単位以上	32単位以上 (他学科の科目を6単位まで認める)			」に改める。
-----------	--------	----------------------------	-----------------------------	--	--	--------

附 則

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に改正前の規程により授業科目を履修する者については、この規程による改正後の規程第4条第1項第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

改正理由

より適切な教育効果を期するための所要の改正

北見工業大学科学研究支援員取扱要項の一部を改正する要項

平成15年3月19日

北工大達第17号

北見工業大学科学研究支援員取扱要項（平成14年北工大達第1号）の一部を次のように改正する。

第6第1項中「ただし、任用できる期間は、当該年度の1月末日までとする。」を削る。

附 則

この要項は、平成15年3月19日から実施する。

改正理由

「科学研究費補助金の補助条件の変更について」（平成14年11月27日付け14文科振第559号文部科学大臣通知）に基づく所要の改正

北見工業大学受託研究員取扱規程の一部を改正する規程

平成15年 4月 1日

北工大達第18号

北見工業大学受託研究員取扱規程（昭和60年北工大達第2号）の一部を次のように改正する。

別表（第6条、第7条関係）を次のように改める。

別表（第6条、第7条関係）

区	分	研究期間	研究料
一般の受託研究員	長期	6か月を超えて1年以内	541,200円
	短期	6か月以内	270,600円
農林水産省農林水産技術会議事務局所管の独立行政法人（注参照）が定める「国内留学制度」による受託研究員	長期	6か月を超えて1年以内	541,200円
	短期	6か月以内	270,600円
農林水産省農林水産技術会議事務局所管の独立行政法人が定める「流動研究員制度」による受託研究員		3か月以内	135,300円
農林水産省「農業改良普及推進事業実施要領（普及職員等資質向上緊急対策事業）」による受託研究員	改良普及員	6か月以内	270,600円
	専門技術員及び農業研修教育施設等指導職員	3か月以内	135,300円

（注） 農林水産省農林水産技術会議事務局所管の独立行政法人
 農業技術研究機構、農業生物資源研究所、農業環境技術研究所、農業工学研究所、食品総合研究所、国際農林水産技術研究センター、森林総合研究所、水産総合研究センター

附 則

この規程は、平成15年 4月 1日から施行する。

改正理由

「受託研究員、私学研修員、専修学校研修員、公立高等専門学校専門研修員、公立大学研修員及び教員研修センター研修員の研究料について」（平成15年 3月18日付け14文科振第902号文部科学省研究振興局長通知）に伴う所要の改正

北見工業大学事務組織規程の一部を改正する規程

平成15年4月9日

北工大達第19号

北見工業大学事務組織規程（昭和42年6月1日制定）の一部を次のように改正する。

第11条の2中「総務課及び学生課」を「総務課、教務課及び学生課」に改める。

附 則

この規程は、平成15年4月9日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

改正理由

教務課の事務組織の変更に伴う所要の改正

北見工業大学事務組織細則の一部を改正する細則

平成15年4月9日

北工大達第20号

北見工業大学事務組織細則（昭和42年6月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第6項中第4号を削り、第5号を第4号とし、同条中第8項を第9項とし、第7項の次に次の1項を加える。

8 専門職員（物品管理担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 物品の管理及び運用に関すること。
- 二 物品の請求及び供用に関すること。
- 三 物品管理の計算証明に関すること。
- 四 物品の寄附、管理換及び不用決定に関すること。

第3条に次の1項を加える。

10 専門職員（法人化調査担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 法人化等に係る情報の収集及び分析に関すること。
- 二 法人化等に対応した財務・会計システムの整備に関すること。
- 三 法人化等に対応した会計基準等の作成に関すること。

第4条第4項第1号中「学籍に関すること」の次に「（専門員（大学院担当）の所掌に属するものを除く。次号から第12号までにおいて同じ。）」を加え、同項を同条第5項とし、同条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 専門員（大学院担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 大学院教育についての総括及び連絡調整に関すること。
- 二 大学院に係る第5項に掲げる事務に関すること。
- 三 その他教務課の所掌事務のうち、大学院に係る高度な専門的事項に関すること。

附 則

この細則は、平成15年4月9日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

改正理由

会計課及び教務課の事務組織の変更に伴う所要の改正

= 日程 =

平成 15 年度 学 事 日 程

(教 務 課)

2003年

4月1日(火)	前期授業開始(2年次以上)
4月4日(金)	入学式(編入生を含む)
4月7日(月)	新入生ガイダンス(編入生を含む)
4月8日(火)	前期授業開始(1年次)
4月28日(月)	休講 6/13開学記念日振替
6月27日(金)	休講 大学祭準備(予定)
7月16日(水)	月曜日授業振替日
7月17日(木)	月曜日授業振替日
7月22日(火)～7月31日(木)	前期定期試験
8月1日(金)～9月23日(火)	夏季休業日
9月19日(金)	学位記授与式
9月24日(水)～9月30日(火)	集中講義期間・補講等調整期間
10月1日(水)	後期授業開始
12月5日(金)	休講 推薦入学試験(予定)
12月19日(金)	就職ガイダンス
12月22日(月)～1月16日(金)	冬季休業日
12月22日(月)～12月25日(木)	4年次再試験(卒業予定者)

2004年

1月13日(火)～1月15日(木)	集中講義期間
1月16日(金)	大学入試センター試験準備
1月17日(土)～1月18日(日)	大学入試センター試験
2月12日(木)	月曜日授業振替日
2月17日(火)	月曜日授業振替日
2月18日(水)～2月27日(金)	後期定期試験(卒業研究審査を含む)
3月1日(月)～3月31日(水)	学年末休業日
3月12日(金)	後期日程入学試験
3月25日(木)	学位記授与式

= 日誌 =

(総務課)

- | | | | |
|------|----------------------------|----------------------------|--|
| 1月6日 | 御用始め | 2月1日 | 外国人留学生見学旅行 |
| 8日 | 総務委員会 | 5日 | 第5回大学改革特別委員会
SCS事業連絡協議会 |
| 9日 | 人事委員会 | 6日 | 学生委員会 |
| 10日 | 大学院専攻主任会議
外国人留学生スキー研修 | 7日 | 地域共同研究センター兼任教官会議
人事委員会 |
| 13日 | 集中講義期間(～16日) | 12日 | 大学院博士前期課程(第2次)入学
試験(学力) |
| 14日 | 教務委員会
大学入試センター試験監督員説明会 | 大学院博士後期課程(第2次)入学
試験(面接) | |
| 15日 | 第656回教授会
第130回研究科委員会 | 13日 | 大学院博士前期課程(第2次)入学
試験(面接) |
| 17日 | 第11回独立行政法人化問題ワーキン
ググループ | 入学試験実施委員会 | |
| 18日 | 大学入試センター試験(～19日) | 14日 | 総務委員会 |
| 20日 | 地域共同研究センター第11回特別講
演会 | 17日 | 後期定期試験(～28日) |
| 23日 | 第12回独立行政法人化問題ワーキン
ググループ | 学長主催特別講演会 | |
| 24日 | 第8回再編・統合問題ワーキンググ
ループ | 18日 | 入学者選抜委員会 |
| | | 19日 | 第657回教授会
第131回研究科委員会
大学院博士前期及び後期課程合格発
表
私費外国人留学生選抜合格発表 |
| | | 24日 | 人事委員会 |
| | | 26日 | 総務委員会 |
| | | 27日 | 教務委員会 |
| | | 28日 | 大学院専攻主任会議
地域共同研究センター第12回特別講
演会
第6回大学改革特別委員会 |

この学報は再生紙を使用しています。